

さいたま市立大原中学校 学校だより



新しき光



さいたま市立大原中学校

TEL 048-831-5397 FAX 048-835-1357

WEB <https://ohara-j.saitama-city.ed.jp/>

第5号

校訓「歴史を拓く」 学校教育目標「はつらつとした生徒、地域に輝く学校」

令和7年9月1日発行

思いをつなぐ

校長 越智 宏明

39日間の夏休みが終わり、学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。「異常気象」という名のとおり、記録的な猛暑日が続きましたが、ひと夏の思い出は出来たでしょうか？

1年間のど真ん中となるこの2学期、大原中学校は積極的に地域社会と関わりをもち、主体的に情報を発信することで、生徒一人ひとりが「なりたい自分」に出逢える教育活動を推進していく所存です。

その第一弾として、大原中学校は、校区内の上木崎小学校、針ヶ谷小学校と協働して、「忘れな草プロジェクト」に参加します。これは、一般社団法人「ほのぼの運動協議会」が主催する取組で、東日本大震災で被災した福島県の農業高校の生徒たちが栽培した忘れな草を譲り受け栽培することで、「東日本大震災を忘れない」、「人と人とのつながりを忘れない」という思いを全国に広めていくことが主旨となっています。

8月5日、この「忘れな草プロジェクト」参加に当たり、本校の生徒会役員がほのぼの運動協議会の方たちとオンラインでミーティングを行い、理事長の大河原毅さんたちから同協議会の活動内容や忘れな草プロジェクトについてお話を伺いました。大河原さんは、ケンタッキー・フライド・チキン(KFC)の日本1号店の店長で、あのカーネル・サンダース氏から直接チキンの調理法を伝授された後、日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社の社長も務められた方です(余談ですが、KFCのホームページによると、この調理法を知っている人は世界に3人しかいないとか…。)。そして、同協議会を運営する基礎には、創業者であるカーネル・サンダース氏の思いが色濃く反映されているとのこと。これは私も初めて知ったのですが、カーネル・サンダース氏がケンタッキー・フライド・チキンの第1号店をオープンさせたのは、氏が65歳の時という、世間では既にリタイアする年齢になってからだったそうです。彼は、アメリカの貧しい農家の長男として生まれ、10歳の時から働きに出て、ペンキ塗り、軍隊、鉄道員、弁護士助手、保険営業などいくつもの職業を転々としてきました。そして1955年、65歳で自らレシピを考案したオリジナルチキンの店を出店、わずか8年で店舗数を600店まで急拡大させたのです。その後、1980年に90歳で亡くなるまで、彼は、自分が成功できたのは周囲の支えがあったからこそであり、その恩は返さなければならないという信念のもと、世界中を飛び回り、たくさんの福祉活動に尽力しました。その一つが、「ほのぼの運動協議会」だったのです。そして彼の思いは、同協議会を通じて福島県の高校生たちを励まし、更にそれが今度は、地震や豪雨で被災した能登や九州の人たちのことも元気にしようとしています。「自分が支えられた分、今度は自分が別の誰かの支えになる」というカーネル・サンダース氏の思いは、氏の没後45年が経った今でも確実に受け継がれ、広がっています。大原中学校の生徒たちもまさか「忘れな草」とおしてカーネル・サンダース氏の思いとつながるとは思いもしなかったでしょう。

大原中学校、上木崎小学校、針ヶ谷小学校の3校では2学期、この「忘れな草プロジェクト」の一環として、東北、能登、九州の復興に向けた募金活動を行う予定です。そこで集まった義援金は、ほのぼの運動協議会を通じて被災地の復興支援に充てさせていただきます。募金活動の日程が決まりましたら保護者、地域の皆様にも改めて周知させていただきますので、ご協力をいただければ幸いです。

カーネル・サンダース氏は生前、「最も奉仕する者が最大の利益を得る。我が身の前に他人に奉仕せよ」という言葉を遺しています。他人に奉仕することが喜びと思える、それが当たり前の雰囲気となる学校や地域を築いていくことが、今の私の思いです。

2学期も大原中学校に温かいご支援とご協力をお願いいたします。



生徒会の役員は、ほのぼの運動協議会の方に、「忘れな草プロジェクト」の意義について熱心に質問をしていました。